



ROHM MUSIC FESTIVAL

ロームミュージックフェスティバル
2021



2021.4/24^土・25^日
ロームシアター京都

主催：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

共催：ローム株式会社

後援：京都府、京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

ごあいさつ

この度はローム ミュージック フェスティバル2021にご来場いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して
豊かな文化を作ることを中心に様々な音楽文化支援活動を継続的に実施しています。
特に奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、音楽を学ぶ若い人たちを支援する
事業に力を入れてきました。

そしてこのような事業を通じて関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の皆様は
国内外で活躍されています。

このフェスティバルでは「ローム ミュージック フレンズ」という繋がりが生み出す、豪華共演
をお届けします。

素晴らしい音楽家たちによる音楽との出会いをぜひお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
ローム株式会社

Schedule

4/24 [土]	12:00開演 (11:15開場)	サウスホール	珠玉の室内楽コンサート
		リレー コンサート A	
	16:30開演 (15:45開場)	サウスホール	
		リレー コンサート B	ダンス・ミュージックへの誘い
	18:30開演 (17:30開場)	メインホール	歌手×映像が織り成す「椿姫」スペシャル・ハイライト!
		オーケストラ コンサート I	
4/25 [日]	14:30開演 (13:45開場)	サウスホール	歌手と器楽奏者による「モーツァルト・ガラ・コンサート」Vol.2
		リレー コンサート C	
	17:00開演 (16:00開場)	メインホール	ベートーヴェン・コンチェルトの夕べ
		オーケストラ コンサート II	

企画:公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 制作プロデュース:善積 俊夫
メインホール/サウスホール公演 構成:新井 鷗子 制作:株式会社1002 運営:エラート音楽事務所
オンライン ライブ/アーカイブ配信:カーテンコール
ローム・スクエア制作:株式会社Ryu

リレー コンサート A 珠玉の室内楽コンサート

サウスホール **12:00開演**(13:30頃終演予定)

F.J.ハイドン
F.J.Haydn

ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25 「ジプシー・トリオ」
Piano Trio No.39 in G Major Hob.XV:25 “Gypsy Trio”

I Andante

II Poco Adagio

III Rondo all'ongarese : Presto

田村 響(ピアノ)
黒川 侑(ヴァイオリン)
佐藤 晴真(チェロ)

L.v.ベートーヴェン
L.v.Beethoven

モーツァルト「フィガロの結婚」の「伯爵さまが踊るなら」の
主題による12の変奏曲 ヘ長調 WoO 40
12 Variations on “Se vuol ballare, signor contino” from Mozart's
《Le nozze di Figaro》in F Major WoO 40

田村 響(ピアノ)
黒川 侑(ヴァイオリン)

G.ロッシーニ
G.Rossini

チェロとコントラバスのための二重奏曲 ニ長調
Duo for Violoncello and Contrabass in D Major

I Allegro

II Andante mosso

III Allegro

佐藤 晴真(チェロ)
渡邊 玲雄(コントラバス)

～休憩～

F.シューベルト
F.Schubert

ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.114, D.667 「ます」
Piano Quintet in A Major Op.114, D.667 “Die Forelle”

I Allegro vivace

II Andante

III Scherzo : Presto

IV Andantino

V Allegro giusto

田村 響(ピアノ)
黒川 侑(ヴァイオリン)
瀧本 麻衣子(ヴィオラ)
佐藤 晴真(チェロ)
渡邊 玲雄(コントラバス)

F.J.ハイドン(1732～1809)
ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25
「ジプシー・トリオ」

ピアノを含む3種楽器によって演奏されるピアノ三重奏曲の代表格がピアノ、ヴァイオリン、チェロという編成だ。その初期の大家ヨーゼフ・ハイドンは40数曲に及ぶピアノ三重奏曲を書いた。本作はすでに名声を確立した彼が2度目のイギリス演奏旅行を敢行した1794～95年頃の作品。第3楽章がロマ音楽風であることが愛称の由来。

第1楽章：アンダンテ、ト長調、2/4拍子。変奏曲。ピアノとヴァイオリンの示す穏やかな主題は2部形式。第1変奏はト短調、第2変奏はト長調。第3変奏はホ短調でヴァイオリンが活躍し、第4変奏ではピアノが活発に動きまわる。

第2楽章：ポーコ・アダージョ、ホ長調、3/4拍子。3部形式。ピアノが優美に歌う。

第3楽章：プレスト、ト長調、2/4拍子。ロマ音楽のリズムと旋律をとり入れたロンド。

L.v.ベートーヴェン(1770～1827)
モーツァルト「フィガロの結婚」の「伯爵さまが踊るなら」の
主題による12の変奏曲 ヘ長調 WoO 40

W.A.モーツァルトが1786年に初演したオペラ「フィガロの結婚」は、好色な伯爵を召使フィガロが懲らしめる物語。その第1幕で自分の婚約者への伯爵の野望を知ったフィガロが「よし、負けないぞ」との決意を込めて歌うカヴァティーナの旋律を主題として、ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンはこの二重奏曲を書いた。シンプルな主題に12の変奏が続く。1792～93年作曲。

G.ロッシーニ(1792～1868)
チェロとコントラバスのための二重奏曲 ニ長調

ジョアッキーノ・ロッシーニは室内楽曲も書いている。本作は彼が1824年に有力後援者デイヴィット・サロモンズの縁故者であるコントラバス奏者フィリップ・ジョセフのために作曲したもので、ジョセフの師匠のドラゴネッティがチェロを受け持ち、ジョセフがコントラバスを担当してサロモンズ邸で初演された。その後そのまま埋もれていたところ、1968年にサロモンズの遺品の中から楽譜が発見され、翌1969年に初出版された。

第1楽章：アレグロ、ニ長調、4/4拍子。2部形式。第2部では第1部が調を変えて再現される。

第2楽章：アンダンテ・モッソ、変ロ長調、3/4拍子。チェロ、コントラバスが順に主題を示す第1部、ト短調の第2部、チェロが短く主題を再現する第3部からなる。

第3楽章：アレグロ、ニ長調、3/4拍子。コントラバスの刻むリズムにのってチェロが主題を歌う第1部、コントラバスがイ長調で主題を模倣する第2部、主題の再現、コーダから構成される。

F.シューベルト(1797～1828)
ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.114, D.667 「ます」

ピアノを含む5つの楽器がそれぞれ異なるパートを演奏するピアノ五重奏曲の一般的な編成は、弦楽四重奏(第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)＋ピアノだが、フランツ・ペーター・シューベルトのこの作品は、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによって演奏される。1819年夏、友人の歌手フォーグルとともにオーストリア北部の町シュタイアーを訪れたシューベルトは、鉱山主でチェロ愛好家のパウムガルトナーの依頼により、パウムガルトナーの音楽仲間の楽器編成に合わせてこの曲を書いた。第4楽章の変奏曲主題に2年前の自作歌曲「ます」の主題が用いられたことからこの愛称で親しまれている。

第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、4/4拍子。勢いあるピアノの上昇主和音句に導かれてヴァイオリンが4つの2分音符から歌いだす第1主題と、ホ長調の弾むような第2主題によっている。

第2楽章：アンダンテ、ヘ長調、3/4拍子。3つの主題を持つ緩徐楽章。

第3楽章：スケルツォ、プレスト、イ長調、3/4拍子。表情ゆたかなスケルツォ。

第4楽章：アンダンティーノ、ニ長調、2/4拍子。歌曲「ます」の主題に5つの変奏が続き、主題を各楽器で分け合うコーダで結ばれる。

第5楽章：アレグロ・ジュスト、イ長調、2/4拍子。ハンガリー風の活気あるフィナーレ。

[萩谷 由喜子]

リレー コンサート B

ダンス・ミュージックへの誘い

サウスホール 16:30開演(18:00頃終演予定)

J.S.バッハ <p>J.S.Bach</p>	イギリス組曲 第3番 卜短調 BWV808より V.ガヴォット、VI.ジーク <p>V.Gavotte, VI.Gigue from Englische Suiten No.3 in G Minor BWV808</p>	清塚 信也(ピアノ)
F.ショパン <p>F.Chopin</p>	ワルツ 第6番 変ニ長調 Op.64-1「小犬のワルツ」 <p>Waltz No.6 in D-flat Major Op.64-1 “Valse du petit chien”</p>	
	ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」 <p>Waltz No.9 in A-flat Major Op.69-1 “L’adieu”</p>	
	ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op. 53「英雄」 <p>Polonaise No.6 in A-Flat Major Op.53 “Heroic”</p>	
D.ポッパー <p>D.Popper</p>	ハンガリー狂詩曲 Op.68 <p>Ungarische Rhapsodie Op.68</p>	古川 展生(チェロ) <p>清塚 信也(ピアノ)</p>
清塚 信也 <p>Shinya Kiyozuka</p>	Baby, God Bless You <p>Baby, God Bless You</p>	清塚 信也(ピアノ) <p>古川 展生(チェロ)</p>
V.モンティ <p>V.Monti</p>	チャルダッシュ <p>Csárdás</p>	松田 理奈(ヴァイオリン) <p>清塚 信也(ピアノ)</p>
清塚 信也 <p>Shinya Kiyozuka</p>	つながる心 <p>Tsunagaru Kokoro</p>	清塚 信也(ピアノ) <p>松田 理奈(ヴァイオリン)</p>

～休憩～

A.メンケン <p>A.Menken</p>	「美女と野獣」より 美女と野獣 <p>Beauty and the Beast from Beauty and the Beast</p>	清塚 信也(ピアノ)
G.ガーシュウィン <p>G.Gershwin</p>	ラプソディ・イン・ブルー <p>Rhapsody in Blue</p>	
P.I.チャイコフスキー <p>P.I.Tchaikovsky</p>	バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71より 花のワルツ <p>Valse des fleurs from The Nutcracker Op.71</p>	清塚 信也(ピアノ) <p>松田 理奈(ヴァイオリン) <p>古川 展生(チェロ)</p></p>
M.ラヴェル <p>M.Ravel</p>	亡き王女のためのパヴァーヌ <p>Pavane pour une infante défunte</p>	
G.M.ロドリゲス <p>G.M.Rodriguez</p>	ラ・クンパルシータ <p>La Cumparsita</p>	
A.ピアソラ <p>A.Piazzolla</p>	リベルタンゴ <p>Libertango</p>	
R.ロジャース <p>R.Rogers</p>	ミュージカル「王様と私」より シャル・ウィ・ダンス? <p>Shall We Dance? from The King and I</p>	

「音楽が生まれた瞬間がいつだったか」これは全音楽家が1度は想いを馳せる議題のひとつではないだろうか。クラシックの歴史は、ヨーロッパが楽譜を残し始めた1500年頃からである。人類の歴史から比べれば、高々500年くらいの浅い歴史と言える。音楽の起源は、原始時代に狩に繰り出す時の掛け声が歌になったとか、色んな見解があるだろう。そんな中に、「ダンス」というのも相当に古い歴史として入ってくるのではないだろうか。音を体で感じ、リズムをハートで刻む。何の確証もないが、人類が誕生してからずっとやってたんじゃないかって私は感じる。そんな「ダンス・ミュージック」が、どんな歴史を辿り、各国でどんな変化を遂げたのか、ぜひ今日は皆で体感して行きたいと思います。

Shall We Dance?

清塚 信也

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

清塚信也の幼少時代

J.S.バッハ(1685～1750)

イギリス組曲 第3番 卜短調 BWV808より

V.ガヴォット、VI. ジーク

J.S. バッハがワイマール時代の1715年頃からケーテン時代の1720年代初めにかけて書いた鍵盤楽器用の6曲の組曲は、バッハの末子J.C. バッハによる筆写譜の第1番の扉に「イギリス人のために作曲された」と記されていることから《イギリス組曲》と呼ばれる。第3番卜短調BWV808は全6曲構成。その中から、第5曲のガヴォットと第6曲のジークが演奏される。いずれも舞曲でガヴォットは2/2拍子。中間部に第2のガヴォットが挿入されている。12/8拍子のジークは3声のフーガのスタイルで書かれている。

F.ショパン(1810～49)

ワルツ 第6番 変ニ長調 Op.64-1「小犬のワルツ」

パリ定住後のショパンが半同棲生活を送った作家ジョルジュ・サンドは愛犬家だった。ショパンも彼女の犬たちを可愛がり、ある日、その一頭マルキが自分の尻尾にじゃれついてくると回るようすからヒントを得てこのワルツを書いたといわれる。変イ音を中心に上下に旋回する音型が小犬の動きを描写しているとされる。

F.ショパン(1810～49)

ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」

パリ生活が軌道に乗り出した1835年夏、ボヘミアの温泉地で両親と久々の再会を果たしたショパンは、パリへの帰途、ドレスデン在住の知人ヴォジンスカ伯爵家を訪問し、同家の娘マリアと恋に落ちた。このワルツは、ドレスデンを去るときショパンがマリアに贈ったもの。彼とマリアは婚約まで交わすが結婚に至らずに終わる。ショパンはこのワルツをマリアとの恋愛の形見として封印し、生前には出版しなかったため遺作となった。

F.ショパン(1810～49)

ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」

パリ生活が軌道に乗り出した1835年夏、ボヘミアの温泉地で両親と久々の再会を果たしたショパンは、パリへの帰途、ドレスデン在住の知人ヴォジンスカ伯爵家を訪問し、同家の娘マリアと恋に落ちた。このワルツは、ドレスデンを去るときショパンがマリアに贈ったもの。彼とマリアは婚約まで交わすが結婚に至らずに終わる。ショパンはこのワルツをマリアとの恋愛の形見として封印し、生前には出版しなかったため遺作となった。

F.ショパン(1810～49)

ワルツ 第9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ(告別)」

D.ポッパー(1843～1913)

ハンガリー狂詩曲 Op.68

プラハ生まれのダーヴィット・ポッパーはウィーン宮廷管

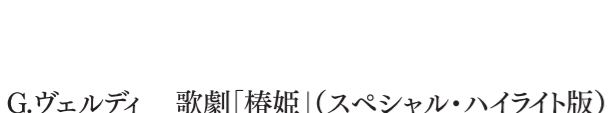
オーケストラ コンサート I 歌手×映像が織り成す「椿姫」スペシャル・ハイライト!

メインホール **18:30開演** (20:30頃終演予定)



G.ロッシーニ 歌劇「セミラーミデ」序曲
G.Rossini Opera 《Semiramide》 Overture

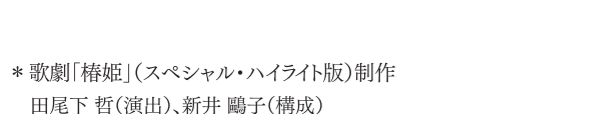
G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture



G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)



下野 竜也(指揮)
朝岡 聡(ナビゲーター)
東京交響楽団(管弦楽)



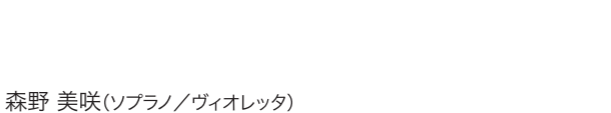
G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)



G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)

G.ロッシーニ 歌劇「セミラーミデ」序曲
G.Rossini Opera 《Semiramide》 Overture

G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture



G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)

森野 美咲(ソプラノ/ヴィオレッタ)
高田 正人(テノール/アルフレード)
甲斐 栄次郎(バリトン/ジェルモン)



G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)

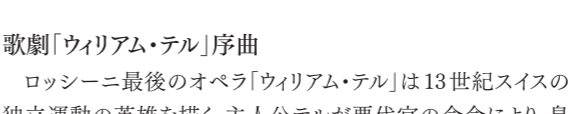


G.ヴェルディ 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)
G.Verdi Opera 《La traviata》 (Special highlight Version)

G.ロッシーニ(1792～1868)

歌劇「セミラーミデ」序曲

1823年2月3日に初演されたジョアッキーノ・ロッシーニのオペラ第34作「セミラーミデ」は古代バビロニアが舞台。女王セミラーミデはアッシリアの若い武将アルサーチェを夫に迎えて王位を継がせたいが、彼はセミラーミデと先王ニーノとの間の息子であることが判明する。しかも彼女は悪徳神官アッスールと共謀して先王ニーノを謀殺していた。前非を悔いたセミラーミデがアルサーチェと抱擁したとき、アッスールがアルサーチェを襲い、応戦した彼は誤って母を殺害してしまう。序曲冒頭はホルンの4重奏による序奏。主部はオペラ本編の名旋律を繋いだもの。



G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture

G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture



G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture



G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture



G.ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.Rossini Opera 《Guillaume Tell》 Overture

G.ヴェルディ(1813～1901)

歌劇「椿姫」

フランスのデュマ・フィスの小説を原作とするジュゼッペ・ヴェルディのオペラ第18作「椿姫」は1853年3月6日にヴェネツィアで初演されたが、ヒロインが高級娼婦という設定に観客が戸惑い、歌手にも人を得ず不評だった。だが歌手を刷新して再演したところ今度は好評を博し、今日の隆盛の土台を築く。実は「椿姫」とはデュマ・フィスの原作のタイトルで、ヴェルディはこれを「ラ・トラヴィアータ(道を踏み外した女)」とした。その理由は、原作では真実の恋に目覚めたヒロインの葛藤がテーマとなっているのに対し、オペラでは社会から虐げられた存在としてのヒロインに温かな目を向け、社会的弱者に犠牲を強いる市民社会のエゴイズムをあぶりだすことを主眼としたためだろう。

長大な序曲はなく、第1幕と第3幕に互いに関連性のある簡潔な前奏曲が書かれている。

第1幕はヴィオレッタの家の夜会。友人に案内されて地方出身の青年アルフレードがやってくる。歌を所望された彼は最初辞退するがやがてグラスをとって「乾杯の歌」を歌い始め、ヴィオレッタが加わって二重唱となる。アルフレードは愛を讃え、ヴィオレッタは快楽を讃えている。客たちが別室に移ったとき、ヴィオレッタは椅子に倒れこみ、アルフレードから不摂生を戒められ、愛を告白される。客たちが帰り、一人になったヴィオレッタは恋に目覚めかけた自分を「不思議だわ È strano!」といぶかしみ、「あの方こそ待ち望んだ恋の相手かしら」と「ああ、そはかの人か」を歌うが、「ばかばかしい!」と自らの恋心を打消して快楽を謳歌する「花から花へ」に移る。

第2幕は二人の郊外の家。アルフレードは今の幸せな生活に感謝して「燃える心を」を歌うが、ヴィオレッタが生活費のため財産を手放していることを知り、金策しようとバリへ向かう。彼の父ジェルモンがヴィオレッタを訪ねて来て、彼の妹の縁談のために身を退いて欲しいと「天使のような娘」を歌い、ヴィオレッタは「お嬢様にお伝えください」を歌って別れを受け容れる。帰宅したアルフレードは父の言に耳を貸さない。ジェルモンは故郷の美しさを讃える「プロヴァンスの陸と海」を歌い息子を諫める。しかしアルフレードはバリへ行き、ある夜会でヴィオレッタを激しく侮辱してしまう。

第3幕は数カ月後のバリのヴィオレッタの家。今や瀕死の床に就く彼女はアルフレードがここに向かっているというジェルモンの手紙を何度も読み返し「過ぎし日よ、さようなら」を歌う。ついにアルフレードが駆けつけてこれまでのことを詫び、「バリを離れて」の二重唱となる。ジェルモンも到着。ヴィオレッタの魂は天に昇る。



[萩谷 由喜子]